遞信省認可

明治二十年四月三十日刊行

女學雜誌

每土曜日發兌
一册正價五錢
府內無郵送稅

第六十貳號

東京 女學雜誌社

WASON
HQ
1104
J74+

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 62. April, 30th 1887.

第六拾弐號

EDITORIAL:—Woman's Charity Association Voluntary Marriage.
LEADING ARTICLES:—Duties of "W. C. T. U.," by Rev. Mr. N. Tamura.
MISCELLANIES:—Japanese Literature, by H. Suzuki; Influences in School.
BIOGRAPHIES:—Hanna More; Miss Fuji: No. II.
CORRESPONDENCES.
GENERAL NEWS.
ADVERTISEMENTS.
SUPPLEMENT:—The Prize Essays on "Japanese Women's Property."

●社説 婦人慈善會○男女相擇の説
●論説 田村直臣君演説（婦人矯風會員の責任）（完）
●叢話 和文學講義（鈴木弘恭君述）○學校の感化
●佳傳 ハンナ、モール貧民を教育したる事○忠貞不二秘錄（二）
●寄書 カートメル孃の歸國に際し米國傳道會社に送りたる書狀○高崎前橋連合親睦會の祝歌
●新報 十七件 ●廣告
●第四回點取文始末附錄の四

●珊瑚の珠（第二十九回）

○古へは木にても草にても今ま目の前に花の咲きたるを見ながら咏むるは只だ花とのみよみし歌万葉集に數多あり古今集のころは櫻をむねと花といへど中には花の鏡のなる水は云々流るゝ川を花と見て云々花ぞむかしの香に匂ひける云々此等ハ梅を花とのみよめり又花みつゝ人まつ時は云々之は菊ありたなびく山の花のかげかも之は桃櫻藤山吹つゝじなどをしなべて花とのみ咏みしあり後世に至りては花といへば題も歌も櫻に限れり（かたびさし）

○米國禁酒會々頭ウィルラルド曰く慈善の事について尤よく女に適する所のものハ即ち新聞雜誌の記者なり

○ゼョウセフ、クック氏曰く兩人が間の愛は適宜なる試驗を以て之を撿するを得べし而して斯る試驗を經て相結びたるものには決して不幸なる婚姻あらざるべし

○ゼウヂサンド女ガフロイベルトに與ふるの書中に云く吾曹互に意見と好む所とを異にして而して如此く相愛す見るべし世上相愛の人は即ち其質の互に相反する所のものあるを

○小野の通女信州の姥捨山に立寄らざりし時の歌に（燕石雜志）

姨捨の山にハ入らじ名を聞て車をかへす人もこそあれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌第六拾貳號

明治二十年四月三十日

●社説

○婦人慈善會

聞く所に據れバ去る廿一日午後三時より厚生館に於て開かれたる婦人慈善會の會議にハ會員の夫人三百五十名のうち現に出席ありたる方々は僅かに六七名に過ぎず其餘名代として本夫の出席ありしは七十名に越たりとハ承ハれど之を合して尚ほ八十名に及バず總會員の數に對しては四分の一にも足らず眞に淋し氣の有様なりきと申す斯て澁澤榮一君は假に會頭の席に就て暫時演説あり畢て養育院慈善會規程第九條に定めある議定員を選擧したるに伊藤伯爵夫人以下三十名の貴婦人ぞ當撰ありぬ此中にて復た互撰し伊藤伯爵夫人を會長に高崎澁澤の兩夫人を副會長に選擧あり而して五月十三四日比淺草傳法院に於て例の慈善會物品賣捌を催うさるゝ由に定りたるが此度ハ貴夫人自ら賣捌の勞を執られず俳優藝妓落語家の類を雇ひて賣子とさるゝと聞及べり」吾人は初て右の報道に接したる時敢て之を信ぜず抑も慈善の心に富み玉ふのみか女子一般の地位を高めんが爲にハ彼の踏舞乗馬の如き差當り不必要なる邊までも卒先して西洋の風習を學バせらるゝと聞へたる貴婦人の方々にて平常ハ自ら齒ひするとだも屑しとなさるまじき俳優落語家を雇ひ特にハ其御面々が現に尤も嫌惡し玉ふと承ハる藝妓なんどを名代として斯る榮譽ある慈善の取扱を委托ならんとすとハ中々に思ひ合ハされまじき矛盾の説なり神かけて此報道の誤なれとハ祈りつゝも尚ほ慈善會に縁ありと申す人々に就て之を問質すに悲ひ哉此件必しも風の如き評判にハあらずと云へり凡そ志ある者が貴婦人諸氏を見るの温かなるは猶ほ熱湯の如く藝妓俳優の類を見るの冷なるは猶ほ寒水の如し然るに湯水相混じて水やゝ温度を增すと同時に熱湯は亦其割に冷かと相成る者とぞ承知せり貴婦人諸氏が此回の趣向はたとひ彌よ〱慈善の心に富ませらるゝ徴にして彌が上にも賣捌高を多くせんとの信切に出たりとすとも若し之が爲に世人が藝妓輩を惡むの情やゝ減じもせば其反動の及ぶ所ろ密に憂なきを得ず特にハ賣捌の場所たとひ慈善に縁ある傳法院ならんとも彼の卑むべき下賤なる人々が之を賣捌くと聞てハ志あらん者何如でか敢て之に臨まんや斯て慈善に盡力するものハ藝妓俳優落語家にして之に慈惠金を投ずるは遊冶郎しやれ者仕事師ならず女の類なり而して貴婦人諸氏ハ鹿鳴

館に眠り紳士君子は茶番狂言に餘念なく民間の有志も亦た慈悲心を發するの場所なしと云はゞ日本の天下殆んど顚倒したるものと云ふべし且や方今歐米の諸新聞紙は連りに吾國婦女子の地位の進歩驚くべきを報道する眞最中に於て高尚優雅の貴婦人諸氏が古來類稀なる慈善の企を催さるゝに藝妓と連合ありぬと報道せば何人か之に喫驚せざるものあらんや吾人は此回の擧を聞て啻に婦人慈善會の爲にのみ惜まず亦只だ慈惠救濟の事の爲にのみ憾みとせず實に我國女學の進歩上茲に拭ふ可らざるの塵を蒙らせたるヿを慨歎するもの也

○

○男女相擇の說（上）

西村茂樹君は曩に男女相擇の說と云へる一篇の演說文を作り世に示さる吾人は夙に請ふて之を本誌に登錄したるが其論綿密にして文章甚だ長きが爲め前號に至りて漸く之を掲げ畢んぬ抑も嫁娶の禮は人生の大事にして國家道德の因て岐るゝ所の門なるが故に學者尤も深く之が利害に注意する所なかるべからず特に方今西洋の風俗新に輸入して事々物々多少の改革を生じ改革の生ずる所亦隨て善惡の結果を起す莫大なるの時に當りては此の大禮に關する習慣の變化の如きは吾等が尤も信切に研究して其是非を判別すべきものならん西村君が此說に於る蓋しこれが爲めなり吾人は道の爲めに君が用意の周密なるを謝して深く讀者の同感を請はざる可らず

吾人右男女相擇の說を通讀するに當り少か不同意を表し大に異論を呈する所の箇條勘なからずと雖も而も一篇の精神と結論の完滑なるとに至つては全心を擧げて贊成せざるを得ず」

凡そ夫婦は一生の同行者にして貧苦歡樂皆な之れを共にすべきものなり然れども啻に貧苦の際に其苦を頒ち歡樂の折に其樂を共にするのみを以て未だ伉儷の美を盡したりとすべからず歡樂貧苦の有無に關せず起居坐臥出入昇降の間二人相見て互よ心情の喜悅を交へ始終不斷共に和樂するの地に至りて初めて之れを夫婦の樂しみを盡くしたるものと云ふ可きなり故に「道德に厚く人情に深かきものは夫婦の間常に和熟し喧爭するヿなかるべきは」勿論なりと雖も云く喧爭せず云くよく和熟せりとの二事は未だよく夫婦の道を盡したるものにあらざるべし夫婦一生の事もし啻に爭はずして相和するのみにあるか吾人はその尋常の朋友と異なるなきを見る如此淡泊なる喜樂は倘かの志の高尚なるものを驅て婚姻の煩しきよ就かしむるに足らざるなり抑も〳〵婚姻は女子をして先姓氏

を失はしめ男子をして先づ負重の感を懷かしむるもの也之より以上幾多の困難艱苦續々として起り生ずると雖も但だ夫れ伉儷至極の樂よく之を償ふて餘あるが故に吾等敢て肉身を合して一躰の夫婦となるのみ若し然らざらんには靈交の樂すでに足れり朋友としての親睦之に增減せず世の才子佳人敢て婚姻の煩はしきを採らんや。吾人は夫婦の關係を以て如此く至大至重の事とするが故に男女相婚してかの上乘の地を得んと欲するものは必ず先づ雙方の性質を吟味して所云る合性の適否何如を穿鑿せざるべからずと云ふ也。世人或ハ善男善女若し相婚せバ伉儷の和樂此に極るべしと思へり然れども此は未だ人情を知らざる者の言にて多くは交際の極理を味ハざる者の暴斷に出づ蓋し善男善女の結婚は其末或は善光寺參詣の道連に似るべし無爲無爭靜かなると道上の双蝶にも均しきとあらんとは雖も春風薰じて梅花綻び香氣馥郁として人自ら笑ふ如き愉快は只だ之あるが爲に生じ來らずかの合性ある者の相適して氣質のよく投合するにあらずんハ決して其樂しみを得べからざる也。故に世上の夫婦候補者、君等但だ爭ハず逆ハざるの交りにして止んと欲するか則ち人の經歷、品行、地位の何如を聞て輙ち結緣の事を定めて可なり君等もし不爭和熟の上に娯樂愉快の喜を併せ得んと欲せバ則ち上述したる三種の外に更にかの合性の一點に對して尤も深く吟味する所なかるべからざるなり

然るに合性の事たる甚だ漠然として之れを明言するに難し彼の男火女水始よし後惡ろしと云へる昔日の撰擇方は最早文明の合性論として用ゆ可きにあらず然らばとて四種の氣質を定めて億萬の人を之れに從て分類し以て容易に其合ふ所を判定せんとするは亦當今の理學に於て盡さざる所のものあるなり故に今に於て合性を云ふものは卽ち詩人が所謂る電氣的の親和を以安んじ自然が之れを人の感覺に寫し出すの儘に依てその合ふと合はざるとを悟るの外なきなり故に男女先づ交際して互に其人となりを察し深く其氣質の投合何如を考へ理論外に合性の適否何如を感覺するを以て最良の撰擇方とはする也思ふに此れより後ち夫婦たらんものは少くとも多少此樣の手段を經て後に結婚するにあらずんバ双方ともに啻に一生の愉快あらざるのみか測るべからざるの不幸時として必ず起り來るべきなり

蓋し當今世人が男女相擇と云ふものハ寧ろ男女互に擇ぶの謂にあらずして只だ男子が女子を擇び娶るの義なり故に稍や志

高しと云はるゝ男子の輩が女子を擇むの覺悟を聞くに恰もこれ頭中將雨夜の品定めの意見に似たり只だやはらかなる人物を選みて己が望むまゝに敎へ導き以てその心の欲する所に引きつくろはんとするにあり其女性を輕蔑するの甚だしき慨歎の極にたへざるなり然るに如此き希望は只だ家內に封建の政治を行て細君を戸外に出さゞるの昔日に於てのみ好結果を得べし之れを今日に望みて毫も効能あらざるもの也之れを如何んと云ふに昔日は女の境界たゞ一家の內にあり細君の目に經るゝ男子はたゞ夫一人に限れり故に妻は夫の心の儘に形造られて如何やうにも引きつくろはれたるべし假令ひ夫の人と爲り實は心に適はざるものと雖も別に之と比較すべき男子を知らざるが故に又これを嫌惡するの力あるなし止むを得ず其心情を夫の一身に集めて知らず識らず想夫戀の思を深ふしたる僥倖もありしとあり然るに之は昔日の僥倖にして今后復ひ望むべきにあらず之よりして男女の交際益々開け女子の境界公衆の交際社會に突出するに至らば細君の友人には幾多の男子あり夫君の交る所にも亦數多の佳人あるべし此際夫婦相信じ相睦みて最上の愛はたゞ二人が間にのみ存するとをいよ〳〵覺るを得ば則ち可なりと雖も之は只だ合性の宜しきを得て伉儷の間尤も樂みあるものに就てのみ望むべく現今一般の夫婦について敢て望むべきにあらずとせば交際社會之よりして一の弊害を生じ家內の親睦之よりして一の故障を起し內外に測る可らざるの不幸を釀すとあるべき歟尤も懸念する所なかるべからず故に男女撰擇の事を思ふものは眼を過去の經驗に置かずして專ら未來の形勢に着くべしその撰擇を忽せにするものは啻に伉儷上乘の樂しみを得べからざるのみならず之よりして國家に莫大なる損害を惹き起すの源となるべきなり

此故に吾人は男女が初めに於てよく相交際しよく互に氣質をさとり共に合性の適する所を知て後ち決する所あらんとを希望し若し如此せば或はかの不測の弊害の後ちに起生するを防ぐを得べしと信ずるものなり之を以てかの「最初に年若き男女が何程自身に擇びたりとも決して後來の不幸を生ぜざらんとを先見すると能はず既に之れを先見する能はざれば男女みづから擇ぶは唯一時の情慾を逞ぐる迄にして必しも生涯の幸福を得るの益を爲すものに非ず」と云へるが如きは甚だしき暴斷にして實際に當らざる過激の非難なりと信ずと雖も然も彼の合性の適否を知り氣質の投合何如を便ずるとを擧げて全く男女兩人にのみ放任し去りたゞその思ふ儘に任せて以て婚

姻の事を決せしむるハ甚だ危險の事ありとするが故に男女相擇の心得に就てハ西村君が其論文の終結に記されたるものを以て最も穩當を得たるものと爲すべし

●論説

○東京婦人矯風會大會演説第三席筆記

田村直臣君演説（婦人矯風會員の責任）筆記（二）

第二には女の矯風すべき箇條が澤山ある。イヤ多すぎる（笑）一つや二つや三つや四つや五つや六つで無く。百も二百もゴザリマス（大笑）からトテモ述べることハ出來マセン。（笑）今日我が國の有樣を見るならバ西洋各國のを見て色々に家も着物も頭も櫛も何もかも外ばかり變じて其れで心の中ハといふと男女交際夫婦の間のことにハ議論がござりません今日矯風會の目的ハ着物や頭でハ無く。心を變へるのでござります（喝采）。先づ第一に矯風會の最も日本に於て氣を付け矯風したいといふのハ「私の娘が十三にありますがドコかいゝ所へ嫁にやりたい」と言ふ。十六か十七にあると「大變だ後れてしまふ」といふ騷ぎ。（笑）娘を持つものハ二十をこしたら心配し（笑）早く婚禮しなければならない、字なんどハ一字も讀めなくっても構ないから早く妻にしたいと言つて居る譯にて。十三や十四で婚禮してドコに開化がアリマスかドコが文明デゴザリマスカ。イクラ鐵道が出來ても十三や十四で婚禮する樣でハトテモ日本を改良するとハできませんドウか女子は教育を受けなければ人の妻にならん樣にしたいものでござります（喝采）この次には前の論者の言ッた通り離縁のことでありますがこれハ婚姻の時に氣を付けなければなりません。或る人ハ「あの女ハいゝ女だから妻にしたい」と言ッて妻にする。するとすぐ離縁でたゞ「お前さん家へ歸れ」と言つて其れッきり（笑）夫婦の間も何もない。たゞオイソレで道理も何も無い。其の樣なことで文明開化と言ふハ何の事ですか。（笑）其れを變へるにハ色々のことも改めなければなりません。あなたナぜ逐ひ出した「イヤ私にはいゝが親に孝行で無いから出しました」また「しやべッていけないから逐ひ出しました」「孔子樣が逐ひ出せと言ッたから逐ひ出しました」と言ふ次第（笑）斯の如き弊害は直さんければなりません。（喝采）

また其の次ぎは一人の女を見て「あの女は教育もあり物にも達して居る、またあの人の親は二萬圓か三萬圓か持って居るからキットいくらか持って來るだらう。また親が二千圓か三千

圓持つて來るだらう」と言つて夫婦になつて一年か二年たゝん中に親の所へかへし。持て行つた金は全く夫に費やされる。着物でも家具でも嫁にあれバ總てが夫に屬したもので斯の如きものなら家が治るとは決してありません。故に國會の出來るときには「夫は妻の金に一錢一厘たりとも手を付るとハ出來ないと云ふ」を規則にしなければナリマセン。妻のモノハ妻のモノ夫の者ハ夫のものときめなければナリマセン。(喝采)又前の論者の言ハれた通り妾のとですが是はモウ述ません。其の次には最も耻づべき女の位地を下るのハ芳原や品川の女郎屋でござります(喝采)ドチカ女に見識を與へて男のオモチヤにあらぬ樣にしなければナリマセン。

また其の次に女が酒を飲むことや烟草を吸ふことハ甚だ耻づべきことでハアリマセンカ。私は之に付て非常の感覺を持つたことがござります。五年ばかり前に日本を去り亞米利加に行き其れから歐羅巴に行き其れから世界を回つて歸りましたが亞米利加に參りましたら烟草を吸ふ女をケダモノの樣に言ひなしまた英吉利日耳曼其の他の歐羅巴諸洲でも其の通りで女は烟草を飲まないことになつて居ります。其れで土耳其に參つたとき始めて女の煙草を飲むのを見ました。土耳其は回く回敎の行はれて居る國です。其から支那でも澤山に女の飲で居るを見て驚きました。其から吾等が愛する所の日本に歸つて來たらヤツパリ吸つて居るのを見て誠にハヅカシク思いました日本に居つてハさうでもありませんが世界を回つて來て見ると耻る所がござります。日本でも世界の文明と共に進む積りなら今日限り煙草をよしてしまはなければならない。また酒も同樣でゴザリマス。合衆國の如きは女は最も酒をほろぼさんとして色〻と心苦なし居となれバ我が國の女子もドウかしてこのなとを亡ぼす樣にしたい者でござります。斯の如き弊風を述べたならバ澤山あるが充分に時が無いから說き明すことは出來ません。矯風すべき箇條は斯の如く多數ある以上は矯風會の會員は餘程の責任のあることでござります。

第三には米國及び歐羅巴あたりで今日の如くに女の位地の高くなつたのは餘程の星霜を經て及んだとでござります亦女の位地を高うするには餘程の力が入用でござります。亞米利加合衆國の女子のあつかひはまるきり日本の女とちがいます。女の前でハ無禮なとを言とはできません。若し無禮なとを云ハゞすぐ社會に擯斥されドコへ行ても用られません。私がニウヨークの町を步くとき支那人が通るのをシヨンシヨンと言つ

て石を投げたのを見ましたがさうすると女のカゲを通つて逃げたことがありました米國では女がひとりで數千里の道を旅することが出來ます。ソンなことは實に我が邦などには無いことでございます。何が斯の如く米國婦人の位置を高めたかと云ふに一つは女子の一般の敎育二つには基督敎でございます。(喝采)今日我が邦に於て矯風の精神を以て我が邦の女の位地を高めやうとならば。第一に充分の敎育を女子に與へなければなりません。又第二眞正の宗敎則ち基督敎を信仰する様にさせなければなりません。
矯風會のお方はこの二つの力則ち一般の敎育と基督敎の力によれば充分に日本社會を改良することが出來ますと思ひます(喝采)

(大尾)

● 叢話

○和學講義　第一回

鈴木弘恭述

まづ和學とのみ單に云ふときは其の區域汎くして此の内には歷史もあり法律もあり政治もあり歌文は勿論あり然るを大方の人は和學と云へば歌を詠じ假字文を綴るとに限るやうに思ふは非なり和學とは日本學と云ふ意なり即ち日本國のとを大和國とも云へばなり然して是れは漢學英學など外國の學に對して和學とは云ふなり抑も本邦に漢學の渡り來りしは御存知の通り應仁天皇の御代なれども其後三百餘年を經て天智天武の朝廷の頃に至りて漸々世間に行はれ夫より百四五十年を經て嵯峨淳和の御代に至ては甚だ盛になりて天皇も臣下も詩文を弄び單に學問と云ふときは漢學のとなりき是より後も數十年間漢學のみ盛に行はれければ此の數百年の間に本邦固有の文事は悉く荒廢して詠歌の事さへ大に昔時に劣れり是に於て醍醐天皇英意本邦の文事を再興せんと欲し紀貫之等に敕して先づ歌集を撰ましめ玉ひぬ是に因て歌文を嗜むもの復た漸々に著はれたり然れども當時は歌文を以て學術の部類には加へざりしなり如何となれば當時にありては男女を論ぜず歌も文も各自心に思ふ處を口に述べ紙に筆するまでにて甚だ容易なればなり上古の人の詠ずる所の歌は皆この類にて後世の如く苦考して詠出るには非るなり後人より之を看れば甚だ不審に思ふべけれども是れ決して然らず其のわけは當時の人の歌文は平生の詞を其のまゝに用ゐるが故なり是れ却て後世の歌文の如く虛飾なくして淡泊の中に其の情を盡し大に見るべき所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なり歌文を作らんには必ずかくありたきことなり然れども都人と鄙人とは平生日用の言語に自から多少異同ありて都人の詞は大かたは正しく鄙人の詞は大かたは轉訛したるなりき是れ詞も山河の地形に因て變化あるもの歟外國と雖ども同樣あるべし是れ即ち雅言俚言の因りて別るゝ源因なりミヤビゴトとは都風のことなりサトビゴトとは里風のことなり萬葉集古今集などに東歌として載せられたるは皆な里風の歌なり

さて此頃迄は詞は雅俚の差別あるにもせよ語格は正しくして誤まることは無りしなり假令ば古今集の甲斐歌に「甲斐がねをさやにもみしかけゝれなくよこをりふせるさやのなかやま」とある「けゝれなく」は「こゝろなく」を云ふとなり心無くを甲斐の國人の方言に「けゝれなく」と云へるなり是れは加行五の音の「こ」を同四の音の「け」に轉じ良行五の音の「ろ」を同四の音の「れ」に轉じて云へるまでにて其義は違ふことなし凡て古語には轉語と云ものありて轉じて用ゐたる例多くあり然るに現今世人の用ゆる詞には轉用に非ずして凡て變訛したるもの多し然る故に歌文などを作らんとするに當て甚た困難することありこれ現今の人は大かたは男女ともに歌文を作るは勿論古人の文章を閲覽しても解し難き詞の多くありたればなり故に今はこれを解することを一の學問として本邦に生出でたる人は誰も多少之を學ばねばならぬことゝなれり是れ貴族等が今日修むる所の學科中に和學と云ふものゝある理由なり

さて上に云へる現今の詞は轉用に非ずして凡て變訛したるもの多しとは如何なる詞の類ならむと云ふに今其の例を揭げて示すべしまつ貴族等が常に云ふ詞に「めでたく」と云ふ詞あり是は愛甚の義にて愛みの甚しきことなり故に古人は親愛する物をさして云り假令は「めでたき花」「めでたき人」或は「月いとめでたし」「彼の小兒はめでたし」などの如し然るを今の人は慶賀のことに云るは非なり慶賀は古人は「よろこび」と云ふなり又「ありがたき」と云ふ詞も有ることの難き義なり故に古人は珍とか稀とか云ふべき所を「ありがたき」と云ふなり假令は「ありがたき齡」「ありがたき品」或は「世にありがたし」などの如し然るに今の人は辱なし嬉しなど云べき所又謝禮の所を「ありがたし」と云ふは非なり即ち是等の類なり

因に云ふ近世の人の筆の跡を見るに立派の人にてもまゝ筆誤のあるは語格に注意せざるが故なるべし如何なる筆誤ぞと云ふに聊か示すべし先普通日用文などに「誰え」「何所え」と「え」の字をかく是れ誤なり是は「へ」の字をかくべし「え」はかやう

の所に用ゐる詞に非ず「え」とかくは誤なりさて「へ」は大らかな場所をさす詞なれば「誰へ」「何處へ」と書きてよし又「誰に」「何所に」と書くもよろし「に」は細かに場所をさす詞なり古人は此の「に」「へ」の差別を判然と遣ひたり古今集の中に「僧正遍昭のもとに奈良へまかりけるとき」とあるを見べし「へ」は廣く奈良の地方をさし「に」は獨り遍昭の許をさしたり又同日用文の中尤も多くある詞なるが可被成可被下と云ふを假字にて書くとき「成されべく候下されべく候」とかく「れべく」は誤なり「べく」の受る詞は「る」より受る格なり「成さるべく」「下さるべく」とこそ云ふべけれ然れども語格を知らぬ人は成されべくにても成さるべくにても下されべくにても下さるべくにても何れにてもよろしからんと思ふべけれども是を他の詞に移して見るときは其の非なることは明瞭に知らるべし假令は「花が散るべく」「雨が降るべく」「物が有るべく」など云ふ詞を「花が散れべく」「雨が降れべく」「物があれべく」とは云ふ可からず必ず散るべく降るべく有るべくとこそ云ふべけれ又「候得ども」又「候へども」と何れにもかけども「得」は非なり「へ」とかくべし是れ「候」の字は「候」の字の草躰にて候は「候はん」「候ひ」「候へ」と波行四段に活らく詞なればなり是等の類は此の他にも多くあれども餘は文典を說き明すをりにくはしく云ふべし右に云へるだけは苟且にも和學に志したる人々はかばかりのことは速やかに心得べきことなれば今因に諭し置くなり貴孃等明日よりは必ず是等の筆誤なきやうに注意あるべし

○學校の感化

左は明治女學校毎金曜講談の課に對して編者が演述したる所の者の大意なり

鰈平目魚の類が極めて小さき時は兩の目左右へ均しう着てあれども追々成長して躰量重うなり遂に横さまに成りて泳ぐ比に至れば下側の眼は段々と上に登りて末には一方の側に二つの目を並ぶるやうと變はるべし之は最初堅形にして眞直に游泳する比ハ其目の左右に着たるが便利なれども既に横ざまとなりてハ下にある一目の不用となるより自然に上に移りて一方を見るやうにはなるなり。然るに亦之と同樣に不思議なるハ亞米利加の或る大なる洞穴の内は暗黑にして光線少かも透らざるが茲に川ありて川にそれ〴〵の魚もありと云ふに怪しきハ此川の魚大抵盲目にて中には目あるもあれど殆んど見ることの用を爲さずと云へり之は元と光なき暗黑の場所なれば目を遣ふことの用もなく段々と其力を失ひ遂に斯る座頭の魚と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はありしヿあらん此は只だ魚類の中の一二に就て例を擧たるヿなれども動物の世界に斯るタメシは甚だ多く鶴の頸長しと雖も鴨の足短しと雖も象の鼻長く豚の鼻圓しと雖も何れも皆な其塲合々々によりて變化したる決果と知らるゝものなり」

凡そ無情無心なる動物の世界にてすら尚ほ此如く有様に隨つて其躰の様姿を變ゆるものなれば况して萬物の靈たる人間に至つては其居る所の地其出遇ふ所の事によりて一身を變化するヿ太甚だ鋭敏なるが特に人間が人間に交りて双方互に一方を變化するの力あるは眞に驚くべき程のもの也

玆に申す感化とは即ち人を變化する所の此力を云ふものにて何人にも多少は此感化力を有ち又何人も多少は人の感化力に支配さるゝものなり諺にも聖人と同じに居れば清潔となり悪人と交れば自然行跡を破ると云ふと必竟亦た其人等の感化を被るが故なり然るに此感化と云へるヿは知らず識らず在る間に人を變化せしむるものなれば其人に及ぼす所の勢力も亦た不測の間に莫大の決果を生ずるヿあり故によく〳〵注意して成べく善き感化を身に受るやうにするが緊要なれば扨ては古人も朋友を擇ぶヿを喧しう論じ又擇んで仁に居らざれば宜しからずなどと歎へたる儀なるが玆には學校の感化と云へるものは眞に驚くべき決果を生徒の上に及ぼすヿを少しくお話し致度存ずるなり

抑も人既に長じて十八九歳ともなれば先づ一人前の男女に固まり畢りたるヿゆへ最早左程に人の感化に由て變はらざれども夫よりも若き方々は言はゞ軟わき揑り粉の如きものゆへ之を如何やうにも形造るを得べし今ま十二三才以上十七八才までと見受らるゝ女生徒諸君は則ち此時代に在るゝ方々なれバ尤も用心して感化の宜しきものを受け玉ふヿが大切ならん特に女生徒の諸君は一日の内大抵は學校にお出でになり又中には玆に寄宿して始終學校の内に留らるゝ方もあるゆへ朝より夜に至る迄で諸君を感化し諸君を形造る所のものは即ち此學校の様子にてあらん此學校の風が若し道徳に適ひて禮儀正がらんには諸君は知ざる間に優美なる高尚の佳人とお成りなさるべきが不幸にも万一無作法千万なる而も行儀宜しからざる有様にてあらば諸君は日々此の悪風を躰内に吸入て自然に下等の女と成り下るゝなり眞に恐ろしき相違にてはあるまじきか而るに學校の様子と申すものは決して一人や二人の力にて出來るものにはあらず此に居り玉ふ惣ての方々が寄集りて組立てらるゝものゆへ一つの學校の美風を造り出すには諸君人

く々の上に其責任があることと思はる因て諸君御銘々が若し一人丈けの責任を盡して百人の人々が皆それ〲に盡さるゝ所あらば百分の一の骨折を爲して百層倍のよき感化力を他人より受らるゝものと存ず之よりも益多きことはあるまじきなり諸君は何卒人々に責任を負ふて此學校の風儀を善くするやうに力を盡されたきもの也

凡そ人間と生れたる以上は何事か人の爲に盡さずしては相成まじ何如程に學文が上達して立身出世したりとも其人の心若し只だ一己を利すると云ふのみならば之は豚と餘り異らぬものなり諸君はどうぞ一身を立つると共に人を益することを心掛て勉學ありたし特に今ま百世の幸機に出で會ひ女子の地位初て立登らんとする時に際しては諸君が人に對し世間に對して負ひ玉ふ責任甚だ重し何卒此責任を強く感じて身をつゝしみ志を固て勉學あるやうに致度此つゝしみと志とが集り集りて此學校の風を作りなば諸君は即ち知らず識らずして此感化の爲に變化されて悉く此やうなる佳人となり玉ふべく此より後に入學さるゝ方々も亦た皆なそのやうなる人物と相成らるべし此に至て學校の感化も亦遺憾なきことなり

She is so conjunctive to my life and Soul,
That as the star moves not but in his sphere,
I could not, but by her.
Shakespeare.

● 佳傳

○ハンナ、モア貧民を敎育したる事

普天の下神の土にあらざるはなく四海の民兄弟ならざるはなし苟くも吾が心を清くして密かに默考せば吾を惡む所の人吾に逆ふ所の人亦皆な吾が同胞なり何如にかして吾亦之を惡み之に逆ふべけん況して彼の智惠足らざるか肉躰の弱きが爲め世の貧苦困難を一身に集めて終身を暗黑不快の間に送る輩を見ては吾等が衷心熱して惻隱の情勃興せざるを得ず假令ひ吾大厦高樓に住つて錦衣玉食に厭くと雖も世間幾多の貧人が繿褸足を覆はず食勞を償はず顏色蒼白行歩蹌踉として道の邊にさまよふを見れば大厦高樓錦衣玉食は悉く皆な吾心を刺す所の毒物とならん假令ひ吾又清窓に默座して藏書万卷を友とすと雖も滔々たる無學の人一村を廣しとして天下あるを知らず無禮不義獸居して倘ほ人の如く誇るを見ては吾等獨り眞理を研究して徒らに文筆を勞するに堪へず書を投じ筆を棄てゝ自ら之が敎育の任に當らざるを得ざる也世人此當然の心を指して特に慈善の心と稱し此心を行ふを以て行々しくも慈善の行とは爲せり但だ悲ひ哉人皆な此心を有つにあらず故に亦た此行を常にすること能はず獨り吾等が敬愛する姉妹諸君は特更に

この所云る慈善の心に敦きが故に天下の慈善ハ大率ね女流の手によりて成るを常とハする也歐米高貴の婦人が暇あるとき拮据して業を採り金を集めて貧民を救助し愚民を敎育する等の事に使用さるゝは今更めて之を言ふに及ばず我國の貴婦人諸氏が夙に婦人慈善會と云へるを起されたるも亦蓋し之が爲めならん歟吾人は實に吾姉妹の爲に誇る所のものある也故に今ま左に少かハンナモアの傳を記すものハ未だ斯の如き慈善の美事を樂しみとせざる人々の一覽に供して彌よ此事の行ハるゝ廣からんを祈るにあるのみ

抑も今を距ると大凡そ百年の昔に於て英國のブリストルにハンナモアと申す婦人ありけり其地都よりかけ離れたれば元來完全なる敎育を受たるとにハあらねど天稟の文才は既に年おき頃より現ハれたり左れば其十八と云へる比ろ或る詩を作りて心ならずも世に示したるが早くも當時の學雄シエリダンをして喫驚せしめたりと云へり其後初て倫敦に登りたる比ほひは忍び〳〵に聞へたる才名すでに文人の社會に知られてジヨンソンに相見へたる初對面には此の構ひなき粗野なる老先生も口にモア孃の作を吟じて最と鄭重にあいしらひたりとぞ傳へぬ斯れば暫時都に滯留する間に其比天下に名を轟したる倫敦學者社會の面々は悉く皆なモア孃を敬愛せるものとぞ爲れり先づジヨンソンを第一としてゴールドスミス、レーノルド、エドモンドボルク、ギッボン、シエリダンなんど云へる夫々の大學者は固よりスペンソル侯グランビル侯オムデン侯の如き貴人或るはモンタグ夫人カーテル夫人チヤボーン夫人ボスカウエン夫人ベッセー夫人なんど云へる青靴足袋の面々に至るまでモア孃の才に服さゝるはあらざりけり其中にもゲーリッツリと申して當時俳優の老手と聞へ今に至る迄で演劇道に名を留めたる老人は特更に同孃を敬しその作りたるペルセー（脚本の名）を書下して二十連夜ドルーリーレーンの劇場にて自ら演したりと云へりモア孃の才名すでに斯の如く高うなりたれば此外に作りたる脚本又は詩の類なんど皆悉く世上の大喝采を博し得て莫大なる利益を收め當時同孃の名を知らざるものあらざる迄には至りける

然るにモア孃稍や年長けゲーリック既に死してよりは浮きたる交際宴遊の太甚だ果敢なきを覩じ人生の務決してかゝる定めなき行にハあらずと悟りて年四十の頃ブリストルを去る更に十英里の片田舍に退き樹木鬱茂河水淸澄の邊に僅かなる住居をしつらひ其妹等と茲に同居して靜かに日を送りたり顧みて前日の昔を思へバ倫敦第一の會に英名を轟したるは既に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

夢の如し僅かに身を動かして其邊に住へる村民等を見るに無學頑陋にして人道の何物たるを知らず殆んど獸の如き行ひして而も揚々得意の面色あり家貧しく身卑しきながら更に勉るの心もあらず暴飲逸居して天に日あるをも覺えざるが如くなりモア孃今ま目に此有樣を見て心に花さかる都の榮華を比ぶれば人生の義務彼に行くにあらずして此に務るにあるとを悟りしあるべし斯くしてモア孃は志を決し此の貧民を救助するは先づ之を教育するにありと定めて一身を此の大任に捧げんと覺悟しけり彼の大人の品行及び交際社會宗教の價値など云へる書を著して痛く浮薄虚榮の交際社會を非難したるは即ち此間の事ときこえぬ

斯てモア孃は其妹等と共に拮据して學校設立の事に盡力ありたるが愚民の常とて大甚しく之を嫌ひさまぐの評を言ひ觸らして其企を妨んとはせり然れバ漸くにして開きたる學校へとても吾より金を拂ふにあらずんバ子供を送り越さゞる程の次第なるのみか密かに陰謀をめぐらして之を滅せんとまで勉めたるものもありけり或る時所の教師ドレヰットと云へるがモア孃の企を賛成して説教の間に其事をしも相述べたる折柄其言の畢ると其が僅書記と見へたる一人起立し

諸君吾等は次の金曜日に集會して婦人等が今ま開かんとする學校に反對するの良法を協議いたしたし

と報告したるに教師は用捨なく又起つて引續き申さるゝ樣

而して其翌々日の日曜日にハ九時に學校を開き申すべし其時諸君はかの貴婦人等に會し合ハされて然るべし

とあり當時の模樣大率ね右の如し又稍や年立ちて後ち新に某所に一の學校を開かんとされたる折は特更に烈しき反對を受けて三年が間は同孃を苦しめその企を中止せしめんとするものゝみにてそありき反對者のうち種々の惡口を新聞紙に報じて孃を傷つけんとするのみか遂には竊盜賣淫の如き惡行をも爲すべき人ありとまでに之を非るに至りたり然るに孃は一言として此等の非難に答へず友人知己が强て其辨護を奨めたるも悉く否みて其儘に放置したり斯る迫害を蒙るゝと三年に及んで尚ほ止まざりしが其内終の六七ヶ月間は身躰疲勞して重き病の床に伏たる比とあれバ人々の不親切を感ずるとも亦强かりしあらんか孃が心中想ひ遣られて同感の至りあり其頃或人へ送られたる手紙の中に

打たれ、切られ、削られ、叩かれて、此の三年が間ありしのみり此よりも尚ほ久しく斯てそあらん日々人に卑しまれ嫌ハ

るゝのみ此世に復たとなすべき事のあらざるが如くも思はるゝに……

とは記されぬ然れど此失望は猶ほ爲ん方を盡さず人の心も追く々に和らぎて孃の眞心を感ずるもの次第に增加し遂には其子を孃の學校に送りて之が敎育を請ふもの太甚だ多くなりけりモア孃は斯て年々五千圓を其設立したる學校の維持に支拂ひ暇あれば子供の讀むべき小本類を作りて只管らに貧民の敎育に從事したり然るに此小本は亦た莫大に發行して政府よりは特更に數千部を買上げ所々に散布あり又之を佛蘭西伊太利などの語に譯して出版したるものもありたれば孃が貧民敎育の恩は甚廣く行渡りけるとあり」モア孃の傳につきては此外に記すべきと尙甚多しと云へど人若し孃が倫敦の都に花を香ばせたる昔日の繁榮とチェッダー村邊に隱れたる田舍仕事の見榮なきとを比較して人世常然の義務心中眞正の愉快は果して何の所にか得べきと默考せば蓋し大に悟る所あるべき也

○忠貞不二秘錄　（二回）

豐浦はまだあき足らずや思ひけん奥方を毒害し猶も我威を震はんとは企てたり且つ亦彼に諛びて不義の榮利を求めんと組する小人も多かりき實に淺ましき事にこそ不二は久しく給事してもとより發明なりければ智惠を藏して愚に見せ物の役にも立ち難き赴して其害をぞ免ぬかれける幾く年か嫌疑の間に身を保ち奥方を保護せんとする心のうちぞ痛はしき如期而光陰矢の如く春立ちかへり夏果つる秋の扇と奥方は古昔の班婕妤我身にありと獨り寢のいとも寂莫しき閨のうち某侯をうらみも賜ばず朝さな夕なに和歌を吟咏みおはします御心のうちの御いたはしさと心ある者はなげきけり去程に側室豐浦が次第につのる姦計の近きにありと不二は知り如何はせんと寢食を忘るゝまでに快々として心を摧き奥方を慰めつ又豐浦が怒りに觸て風前の柳の眉を含愁れ包むとすれど見わるゝ物思鋪有樣に或夜の宿直に奥方は熟々と御覽じて其方は何やら此程は物思ひの多きにや面影やせて常ならず心に願ふ事あらば何事にても咄かし雖然我れも昔しの我れにはあらず不如意の身其方が幾年誠實に仕へてたもうられしさは子とも親とも見まほしきに我れに包せる事やある若し相應しき事ならば聞て得させん如何にぞや思ひ過して煩ひぞと仰せに不二はむせかへる淚に胸は裂かるゝばかり漸くにして首を擧げ平常に替らぬ御仁愛御請も申し上げ兼ねて只身に餘り難有聊か苦勞も侍らねど若し奥方の御身分に不善事も有んかと夫れのみ心掛に

（不二女豐浦を詰責するの圖）

候と答へ申せば奥方はイヤトヨ我身は兼てより思ひ設けし事あれば今更斯と改めて心に思事もなし夫れ人間の一生は水に浮べる泡よりも猶もはかなき物ぞかし上となり下となる皆これ過去の因縁んならんと云ひつゝ共に愁然と涙さしぐる主從がしばし詞もなかりける折節人の足音に是れと許りに驚き見かへれば女中某出で來り跪て申すよう御尋ねの御書付所々方々と尋るうち早や御寢とハ氣も付かず甚手間とれ候と出せば奥方請取只今牀に入りたるも未寢ねもせで在ぞかし此書付の小きを殊に夜分の事なるに能くも早くぞ尋ねたり太儀々々と何げなき面色し玉ふ側らに不二も早速に蠟燭の甚と暗やかに候と背推し向けて泣き顏を見せじと燈華を取うちに女中は退り出にける跡に君臣二人が燈の下に對座して秋の夜長の物語聞く者更に無りける明れば平常の女中共朝覗に出ければ不二は部屋えぞ行きけるが終日被を打覆ぎ百憂千慮の心の中其大凡を推計るに我身是れ迄幾く年か御慈愛深き奥方の御身の大事と知りながら外所に見過ぎて有る可きやとはいへ大夫有司さへ指も着えぬ與浦なれば惡事の次第を我身より何か程申し上ればとて某侯殊に寵し玉へば何とて用ひ玉はんや夫れ昔しより忠孝兩つは全からぬものと聞く我身はもはや二十二歳弟もある事なれば生涯父母の側に侍て心計の孝養も致しがたきは女の悲しさ其上人の妻となる年も二歳はや閲たり思ひ出せば先年父上近所の小兒輩に句讀を敎し玉ひしに身を殺して仁を爲すとか有且又常々弟へ君恥を受くる時臣正に死るとかいまなは耳根に止まれり我身を殺して奥方を救ひ申すは臣のみち今や姦婦を除かずば何の時を期つ可きや然りながら父母の次第に老させ賜ひたるに今や先ち侍りなば誰が御心を慰めん弟の養育をも助け參らする事も協はず海より深き鴻恩を忘れたるには候はず許させ賜へと伏しづむ啼音を外に洩らさじと齒をくひしばる夜着の内心の思ひ如何ならん　（未完）

●寄書

○カートメル孃の歸國につき米國傳道會社へ送りたる書狀の寫し

麻布東洋英和女學校

左は前號の新報欄内に記し置たる通り右學校よりカートメル孃の働を謝せんとして彼地へ送りたるもの也

我々の最も敬愛するミスカートメル君が近日歸國し玉ふ由を聞き豫め期そる所とハ云ひながら餘り卒爾にして今更に悲しく懷かしく思ひ禁へすとハ雖も扨止むへきにもあらさ

れは切めて我々の赤心を打明し懇ろに君に謝して自ら慰めんとはしたれども君が平生の敬虔にして謙遜なる御心より見れは恐らくは實に過ぎたりとして歸國の後も公に爲し玉はさるは甚た明かなり左れは我々は大膽にも君を派遣し玉へる貴會社に對して直接に君の功績の万一を告げ參らせんとを思ひ定めたり希くは貴會社に於ても永く君の勞を記臆し併て我々の謝意を容納し玉はんとを

ミスカートメルが一婦人の身を以て遠く此國に來り玉ひたるは實に今を去る六年前なりとす君平生の勤めは或は學校の爲に或は教會の爲に或は特別なる婦人會の爲にして其明顯なる點を見れは恐らくは他教師と區別する所なきか如しと雖も君は口云ふへからす字寫すへからさる一種微妙なる德性を享け玉ひ何人にても好を君に通して多少の感化を受けさるは稀れなり就中我々中の或る者は前日に在ては所謂先入主となりて何事も實物實利にあらされは信せすとの學說を喜びたり素より歐米諸國か信仰より產み出す所の美はしき花と實は欽慕せさるにはあらすと雖も身躬ら奉教者とならさるへからさるに至ては頗る躊躇したる者なり然れども十分教理を穿鑿したる後果して善き教にして唯物進化なとの論理に打勝つの價値ならは之に服すへしとは我々なべての考なりき（恐らくは今の日本少年は同一街に彷むものなり男子は西洋の有形開化に眼眩し女子は自らの地位を高ふするは耶蘇教に入らさるへからすとの說に心奪はれ結果なる原因を見て耶蘇教に左袒する者の異樣ならん）又既に信徒となりたる者も其爲す所を今日より顧みれは甚た劣りたる有樣に安んしたるもの丶如し然るに君の身を挺て此國に來り大能の神の手に助けられ性來の深沈にも拘はらす勇敢なる働らきをなし玉ふに當りて此に一つの出來事は我々中の懷疑者か自ら判斷力を失はす少くとも君に就て新約全書の全部を究めたる後去就を決せんものをと思ひ設けたるに實際に至ては左はなくして其小部分を說明かさる丶間に大切なる眞理を曉り遂に耶蘇教は生ける眞の神より出づるなりと呼び聖書の僅かの句は能く我々の生涯を指示し其靈魂と肉躰の何邊に向て運動すへきかを教ゆるものとなれり（未完）

○前橋高崎連合婦人會の祝歌（下）　遂澤鳴尾

同　飯塚花子

もろ人のけふのまとゐの喜ひにこゝろの玉やなほみかくらん

同　染谷いそ子

淺からぬめくみをくみて老か身も花の莚にまとゐこそせめ

同　小野くに子

一しほのいろまさりけり姫松のけふをはしめのすへそ久しき

同　吉村のぶ子

ひらけ行都もひなもおしなへて操の道の猶榮ゆらん

同　染谷ふく子

わかちなくともにつとへる花席名も高崎のけふのまとゐは

正誤前號右歌中千谷こう女のをりあへてはおりにあひての誤なり

●新報

○東京婦人矯風會の議決　同會の議員諸氏十餘名の方々は去る廿四日櫻井女學校に會合して協議あるやう元來この會は世上の悪風を矯正して女權の擴張を望むとの主旨にて設立し今日に至りて益々會の基礎を固うするに至れる所實際の事業に一定したる所なけれバ自然會員の盡力を分散して損する所も少からざるに付自今は會員が共に力を盡して矯正の事を行ふべき方向を定め先ヅ一箇の事業を成遂げたる上にて追々に他の矯風に着手すべしとの儀にて種々の討議あり一方には先ヅ禁酒を第一として盡力すべしとの議論も盛んなりしが佐々木とよ子其外二三の方々は彼の藝娼妓全廢論を以て最も急に着手すべき事業と認め双方種々の討論もありたりしかバ遂に藝娼妓全廢の事を以て第一着の目的となすべきやうに決定ありぬ道の爲に欣賀すべき極なり斯て又東京にある諸の婦人會中此會と志望を同うするものとは成べく相連合すべし及び來月中旬をトし第二回の大演説會を開くべしとの二件をも議定ありぬと聞く

○貸座敷　貸座敷營業及附屬の引手茶屋は本年三月の現在數を定數として自今開業は許可せられず廢業は聞届けらるゝも再興は新規營業と見做して許可せられざることに決議せられたる由なるが成べくは速に貸座敷營業禁止の年限を豫定して布告ありたきもの也

●第二回女學演説　本社は時の必要を見て時々女學上の演説を催うすべき内規有之去年ハレビット夫人を聘して先ヅ其第一會を開きたることあるが爾來今日に至る迄都合ありて其續會を延引したるに付彌よ來月二日に其第二會を催うすべきことに定め木挽町の厚生館に於て午後一時より開場すべき筈なり演者は横濱二百十二番の醫學博士ケルセー孃東京櫻井女學校のツルー夫人及び婦人矯風會員の海老名みや佐々木とよ兩夫人にて横濱二百十二番學校の卒業生鈴木みつ子櫻井女學校の教師峯尾榮子の兩孃通辨あるべし同日は別段に傍聽劵を發せざれども傍聽は惣て女子に限るべき定なれバ愛姉諸君は成べく來聽の榮を賜はりたき事なり

○横濱フェリス女學校交際會　横濱山手百七十八番館のフェリス女學校に於て去廿六日の夜七時より第二回の交際會を催うし女生徒諸君の親戚保證人及び學校より特別に招待ありたる紳士貴婦人二百名を引て親睦會を開かれたり校内の飾付其外は今別に申さず既に定の刻限と相成れハ最初に片山よし平

野濱二孃のチルガン合奏あり。次に長谷川峯子の英文暗誦あり。此間に唱歌ありて。次に四齣の戯演にて一句の確言を現はすと云へる判じ物あり第一齣には戸川小鹿孃袴を穿ち袱布を着けて中瀬と名乗り松田きみ孃洋服洋装して西海と名乗り守舊癖の聞あリと云ふ東孃(青山いく孃)を訪ふて大に女服改良の事を議論ある所にて幕、第二齣には平野はま杉本ひさの二孃しきりに紙よりを作りながらの物語に女子職業の大切なる所以歐米婦人授産の摸樣などをほのめかして幕、第三齣には稲垣ふじ石井かめの二孃田舍物の老夫婦鍾太鼓を鳴らして迷子をさがし索るの躰にて滑稽の應接あり、斯て第四齣は以上三齣中に暗示したる確言を取集めて見すべしとの口上にて藁人形しよんぼりとぞ現はれける來客打興じて此等の四齣を評し合へるが或人先づ其義を語り當てゝ、論、より、證據(鐘鼓)、藁人形のいろは言葉ありとぞ申されたり。次に唱歌。次に琴合奏(立川てつ飲村きく二孃)ありて扨て島田かし坂寄やす星野こう三孃のシェークスピア作レア王第一齣の掛合あり當夜第一の出來として内外の來客ともに感歎したり。次にチルガン合奏(星野光、佐藤てつ二孃)次に活人畵四枚ありて扨又猿蟹昔語の問答あり小林しげ花島きさの二孃相勤められたるが大に喝釆を博し得たり斯て一齊の唱歌を以て終はられたるは既に十時なりき後に茶菓の饗應あり皆な歡を盡して歸散ありぬ」當夜の趣向は皆な上出來にて去年第一回の交際會に比するときは更に立優りて面白う覺へたるとあるが或人は之を評して反つて巧に失したりとか申したりと聞きぬ其人の議論に大凡ろ學校にて斯る催ある節は輕快の趣向中に女生徒諸君平常の伎倆を現はすを以て第一とするものと承はれば彼の長谷川峯子の暗誦レア王演劇の掛合の如く人をして感ぜしめ泣かしむるの類は上々にて固より言ふに及ばず假令ひ稍や輕々しく見ゆるものゝ中にも彼の四齣の戯劇に當今の女論を示す如きは是又甚だ名案なるべしと思はれたるが彼の活人畵の如きは啻に美術上に何の價もなきのみか學校の生徒諸君が自ら催さるゝとあるには少しく見劣するやの心地せりとの事なり是又一應の理由あることと思ひて併て茲に記しぬ要するに當今只管浮きたる樂み事の流行する折柄かゝる實著にして且つ淸潔なる交際の行はるゝは尤も喜ぶべき者と云ふべし

○共立女學校試驗及修練　横濱山手二百十二番の共立女學校に於ては去廿五日より廿八日に至る迄て定期の試驗ありて後ち九名の卒業生あり廿八日の夜七時よりは教師生徒諸君の催

にて修　練の會を開かれたり編者が實見の大畧ハ次號に於て記すべし

○華族女學校長　元老院議官兼學習院長大鳥圭介氏ハ今度更に華族女學校長を兼任されたり

○敎員志願者受驗者　去る廿五日より來月二十三日まで日曜日を除き日々試驗さるゝ尋常師範學校、中學校及び高等女學校の敎員志願者ハ總て二百廿三名にて女子は僅に一名なり

○女學校設立　靑山なる德川家達君の邸內へ今度設立する女學校は琴、三味線、茶の湯、生花、女禮式等を敎授する目的にて敎員杯も其道に達したる者へ囑托する都合なりと云ふ

○矯風志確會　大分縣杵築村の淺野ヒデ子よりの來報にハ同子は此頃其地に矯風志確會なるものを設立して去る三日其開會式を執行はれたるが會するもの五十餘名ありたる趣なり

○京都婦人金曜會　今度西京の有志者等題號の如き會を起し專ら婦人處世の要務を講究し併て交際を廣むるとの主義にて去十六日其第一會を幸町の女學校にて開かれたり同日は中學校長今立吐醉氏西洋風俗家築の事を演ぜられ安藤精軒氏ハ獨立の氣象と題して處世上の事を述べられたる由なり

○京都婦人學業奬勵會　同地荒木もと立入すゑ兩子の報道によれば今度題號の如き會を起して專ら婦人の學業を奬勵する趣にて來月上旬に發會の式を擧げらるゝ由然るに今より既に數多の贊成者ありて此頃無名氏の名を以て金三十圓を寄附されたる向もありしとぞ目今右荒木もと子は本社の特別通信員と相成られたれば之より續々細報を得べき筈なり

○婦人倶樂部　愛知縣名古屋にては女子敎育の議論漸く勢力を得て上流社會の脳部を刺衝するに至り此頃官吏紳士の妻孃には一の婦人倶樂部なるものを組織し婦人交際の道を擴張し兼て學術を研究せんとの計畫あるよし同地に關しては嘗ても申置たる事あり今眞に賀すべき報を得たりと云ふべし

○女學校廢止　北海道師範學校函館分校(則女子師範學校)は去十六日を以て廢止する旨北海道廳より達せられしに付き在校の女生徒十九名は何れも解散を命ぜられたりと云ふ尤も右の內今度初等師範學科を卒業せしもの六名あり其他十三名は中等六級生なりと又右の次第にて同校の敎員は皆非職となりたるに付き敎員素木岫雲氏ハ右附屬小學校及女子寄宿舍跡を拜借し私立函館學校と云ふを設立せんとて已に其許可を得たれは目下規則を編制中なり

●正誤　前號新報運動會の項中其中の十有余名は千有余名の誤也。又六十號新報內栃木女學校の件は取消。

●日本婦人授産策答文（接于前號）

以上は職業種別の概畧を掲けし者にして猶此他に世間已に行はるゝ者少からさるへしと雖とも先右の種別を以て假に滿足あるものと做して其緊要ある者に就て説を下さんに第一學術の働に依る者

(1)著述は尤も上等高貴にして尤も思慮を要するの職業あり然るに今突然斯の如きの職業を以って女子に宜しと云はゝ中には訝る人も無きにあらすと雖とも決して爲し能はさるとにはあらさるなり見よ彼の伊勢物語源氏物語枕双紙の類は皆古の女子か著述する所にして然も男子の及ひ難しと迄に稱賛する所あらすや古の女子既に此著作あり今や文運日進の空氣を呼吸するの女子にして豈成らさるの理あらんや西洋諸學士の研究する所に依れは小説を綴りて人情を穿ち歴史を記して古今の事跡を確に思はする或は書を書きて萬物の美を現す抔に至ては却て女子の勝れりとする所ありと云ふ現に西洋に於て或は新聞雜誌の記者となり化學者醫學者代言人となりて男子と肩を比へ業を執り更に一歩も讓らすと云ふ我國の女子は未た斯の如き實力なしと雖も追々教育の力によりては決して爲し能はさるの事あらさるを知るなり

(2)女教師産婆醫看病婦の説明は前章に盡せるを以て記さす

(3)保姆は他人の親を代表するとも云ふへき者なるを以て幼兒の養育法は充分に心得すんはある可らす然るに我風俗として是等の事に注意するもの少く只哺乳一途を以て滿足するもの多からんとす幼兒の怜悧と健康を欲するには必す教育を受け相應の智徳を有する者を擇ばずんはあるべからす

栽縫の部類は別段の説明を附せさるも明瞭ならん依て飼養の部類中に就きて説述すへし

養蚕は既に盡せるを以て蜜蜂の項より説かん抑も蜜蜂の飼養は女工に甚た適切有益の事ありと雖とも我國にては只紀州熊野邊に行はるゝを聞くのみ其飼養法の如きも去程六ケ敷ものにあらさる者を以て蜜蜂飼養を各地に擴め今日の需用を足する共に女子の一職業となすと尤も有益なるとあり搾乳、衞生の道開くるに從て衣食住の改良を來すは必然あるものにして我國に於ても肉食の道漸く將に盛ならんとするの兆を呈せり從て牛乳の需用も近時益々増加するは各年の統計に依て明なり而して搾乳の業は西洋に於ては總て婦女子の職ありと云ふ故に我國に於ても女子の心得へき職業とはするなり

手術働雜業等の部類に至ては各地已に行はるゝ者にして只此上の精勵を要する迄の事なるを以て玆に説明を下さゝるなり

然るに猶玆に一の然も上等あるものにして新奇職業の女工に適當する者あり則ち左表を見よ

新奇職業の我國女子に授くへきの者

音樂師	時計師	金銀細工
彫刻師	毛織物	電信技手
寫眞師	編物	郵便捺印

玆に音樂師と稱するは我國の三味線の如く決句淫逸を促すか如き弊あるものを云ふにあらすして所謂風を移し俗を易ふるの徳ある學術上名譽ある彼西洋の音樂是なり我國開明の度を進むるに從て彼道徳を導く音曲の我野鄙なる俗曲と交換して日常交際上に行はるゝに至るは早晩必至の事あるを以て今より盛に誘導して其進化を婦人に試むへきなり

時計師彫刻師寫眞師等の綿密を要する職業も其師に就て學へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

れ我女子と雖も決して能はさる者とは云ふ可らす而して毛織物編もの丶如きも亦然りとす既に之を卒業せし婦人も有りと聞及ひぬ

電信の技手及ひ郵便捺印の如きも少く學力を要すれども我國經濟上斯の如き事は決句婦人に任するの便益たるを知るなり當路諸公の間に於ても既に其評議ある趣は新紙上に数〻見る所あり

右の各項は西洋にては已に實際に行はるゝ所にして經驗ある職業なれども只我女子の實力未た玆に至らさる者あらんとを憂るなり

以上論述する所は我婦人授産策の一斑にして先つ第一表に依て其準備を整へ第二表を以て各女流に適用すへき職業を定むるを以て要領とする所なり他日實施の際に及んて猶未た足さる者あるへしと雖ども其綱要に於ては蓋し失せさるに庶幾らんか評査委員の幸に遼東の豕視せられさらんとを希ふのみ

●乙號　東京女子師範學校得業生　雨宮谷子

婦女に授産を得せしめざる可らざるは輿論の既に是認する所にして賤妹か別に喋々するを要せざる所なり貴社夙に爰に見あり江湖に徴するに日本婦人授産策を以てせらる貴社が吾人姉妹を誘導して自立の路を立て眞に婦女子たるの本分を盡さしめんとするの切なる寔に銘肝止まざる所なり賤妹譾劣固より爲すあるに足らずと雖とも聊か所見を吐露し貴社諸君の一閲を煩はさんとす其採擇の如きは敢て期する所にあらざるなり其授産の策論を分ち三節數項とす

第一節　日本婦人に授産なき理由
第一項　政治上より授産なき理由を論す
第二項　習俗上より授産なき理由を論す
第三項　教育上より授産なき理由を論す
第二節　日本婦人授産の方法
第一項　法律上より授産を得せしむる事を論す
第二項　風俗習慣を改良して授産の策を立んとを論す
第三項　教育を改良して授産の策を立んとを論す
第四項　工業上より授産の策を論す
第三節
第一項　結論

第一節　日本婦人に授産なき理由

第一項　政治上より授産なき理由を論す

夫れ財産なる者は人生の至要物なるを以て人皆な之を得んとに汲々たらざるなきはあらず衣食住百般の器具苟も人生必要の事一つも財産に由らざるはなし我邦の婦女決して此の財産の必要なるを知らざるにあらず而して又た此の至要的なる財産を生出せざるにはあらず唯々之れを管守するの道なきより遂ひに無産に終れるのみ或る一部の婦人は衣桂玉食拱手して一生を終る可きも多數一般の婦女に至りては宵に寐ね夙に起き其良人と共に終日營々其業務に黽勉する者比々皆な然り然るに今日迄曾て其の産を爲すを聞かざる所以は他なし封建政治の常として一國の主は其部下人民は己れの私有となし生殺與奪其の己の欲する所に任す一家の主も亦た如此く一家の財産は皆な己れの私有となし一家の家族は皆な己れの專有に属

せり其家族たる者は男女を問はす其の資金を有する者殆と稀なり豈に獨り婦人のみ財產あらんや之を以て終日營々たるも一物なくして止むは自然の理にして固より怪むに足らざるなり維新以來世上の風潮大に革り百般の事其面目を異にせりと雖とも之を内にしては民法未た制定せずして財產分與のこと一家の財產規定のことに至りては毫も昔日に異ならず之を外にしては封建の餘習未た洗滌せす外面に於ては政治上の變革あるも其の實跡に至りては別に異ならざるを見る去れは政治上より看察するも婦女に財產なきは怪むに足らざるを知るなり

第二項　習俗上より授產なき理由を論す

大凡一つの弊害ありて其の弊害の永續し來る所以は種々の原因と復た之れに附着する所の種々の境遇なるものが相倚り相助けて之を漸成せしむる者なれは婦女に授產なき所以の如きも其理由は固より一にして足らざる可しと雖とも就中習俗上より來る者其の多きに居る可し古來より我邦婦女の習俗は每に家に在て他人と交際せず卑屈に安んじ一身をして只管良人舅姑に委托し唯命惟從を以て婦女美德の第一となし之を以て貞操婉娩の最佳なる者なりとす去れは偶ま財產を所有する者ありとするも悉く之を良人の手に委ねて一つも餘ますなし若し之に反して其の財產を分畜し貯蓄する等のことあるときは人認めて以て良人と隔意ある者の如く思惟し遂に之れが爲め琴瑟和調せざる等のことあるに至れり加ふるに我邦婦女子の風習として男尊女卑の風習は凝固して動かす可らず之を以て數年の久き之を男子に比するときは其智識は自然劣等の地位に居り且つ交際を杜塞したるを以て社會の活氣を斂らず遂に職業に拙にして技術に疎なり抑も此の數者の如きは一として婦女授產に妨害を與へざる者なきはあらず此の論や尚盡さゝる所ありと雖とも次節に於て論究する所ある可し

第三項　敎育上より授產なき理由を論す

我邦の敎育は中古よりして唐制を摸倣したるを以て百般の敎育は悉く支那風に依據せざる者とてはあらじ故に支那の敎育にして男女平等主義ならしめは我敎育も亦男女平等なる可しと雖とも若し之に反するときは我邦の敎育も亦之に反せざるを得ざるは數の免かれざる所ならん彼の小學に曰く男女は七歲にして席を同ふせずと云ひ男女授くるに手を以てせざるは禮なりと云ひ或は婦人には七去と云ふ最も不利益なる箇條あり三從と唱ふる困難なる服從法ありて一として男子の爲めに左右し得られざるはなく吾々女子に取りては恰も其頭上に無限擅制政府を戴く者と同じ噫男女同く之れ同一の人間たる可し而して其對比如此し何ぞ吾々女子に對する無情なる一に爰に至るや我邦の敎育亦之に同し試に老儒貝原益軒の著したる女大學を見るに

男女は席を同しくせず衣裳をも同し處に置かず同し處に浴せず物を受取渡すとも手より手に直にせず云々〇女は父母と媒とに非ざれは交はらず親しむべきものに非らず〇舅姑若し我を憎み誹り玉ふとも怒り恨むと勿れ孝を盡し誠を以て使ゆれは後には必らず中よくなるものなり〇如何なる用事ありとも若き男に文など通はすべからず〇嫁して後は我家に行くとも稀なるへし況して他の家へは大方使を遣はして自ら行くべからず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

又た女今川なる者を見るに

出家沙門に對面して側近く慣るゝ事○男たるには假へ間近き親類たりとも親みを過すこと○先づ家を守るには毎事我を立てず夫の心に隨ふべし○夫れ天は陽にして強く男の道なり地は陰にして和に女の道なり陰は陽に從ふことは天地自然の道理にして夫婦の道と天地にたとへたれば夫を天の如く敬ひ貴ふは是れ乃ち天地の道なり

以上の數節は簡單なる數言に止まると雖とも賤妹の説明を俟たざるも婦女子をして交際の道を防ぎ男尊女卑の原則を定め卑屈順從に安んぜしむる道なることを知るに足る可し既に婦女子をして卑屈順從を以て自ら居らしめんとする乎勢ひ自立して授産を立つる克はざるは勿論のことなりと云ふ可し已に教育にして如此くなれば習慣風俗も之れに隨從するは當然の次第なれば今日に至も吾々婦女子に授産なきは懶惰放逸にして授産なきにあらずして一般の境遇授産の道を得せしめざる者と云ふ可し今ま授産策を講するに方りて授産なき理由を論辨するは殆と無用なるが如しと雖とも授産なき原由にして明瞭なるときは遂に授産の方法を得るは事理の然る可き者なるを以て賤妹は敢て無用視せずして玆に論述したる所以なり

第二節　日本婦人授産の方法

第一項　法律上より授産を得せしむることを論す

古來我邦には何事に依らず法律てふ者はあらざるなり凡そ專制政府の常として之に據らしむべし之を知らしむべからずと云へる法言を採用するを以て完備せる法律等は固より之なきなり良し一二の規則、法律等の存するありとするも政府は之を秘して人民に知さしめず公法にして已に然り何ぞ私法の整備したる者あらん故に民法等のことに至りては其の地方適宜の慣習に任し未た一定の法規あらざりしなり而して財産分配のことたる民法中の一に在る者なれば別に規則の存せざるは勿論のことなりと云可し維新以來諸般の法律を制定せられ已に世に發布せられたる者も尠とせざれとも民法の如きは未た發布の運に至らず聞くが如んば目下當途者は其編纂審議を要し居らるゝを以て發布の日も遠きよあらざる可して其の民法中財産分配は如何なる方法に依るか賤妹の得て知る所にあらざれとも賤妹か民法上希望する所は父兄の財産は從來の如く其の一家の相續人に分配するを止め凡そ其子たる者は男女を問はす配與せらるゝのことせられんことを比く之れ子ならん然らは男たり女たるの差等あらざるべからざるなり若民法にして從前の慣習を追ひ婦女に財産分配のことなからしめは吾々婦人の授産上大欠點を生ずる者と云ふべきなり只に授産上のみならず斯くては婦人に權力を與へんとする輿論も到底水泡に屬せざるを得ざるなり

第二項　風俗習慣を改良して授産の策を立んことを論す

第一　婦女の氣性を活潑ならしめ男子と交際の法を開く可し

賤妹が前項に畧論述したるがごとく我邦の婦女は社會上の壓制を蒙むり古來より卑屈從順を以て是れ惟婦女の本分なりと誤認したるが爲め其の上等者流の婦女は終日深閨の裏に住し其夫を除くの外男子に接する如きは殆んと稀なり偶々男子に接することありとするも嬌舌は婦人の失なりとなし談話せざる

廣告

通信女學講義錄

第一卷去十五日發兌

●朝野新聞評　通信女學講義錄は彼の女學の進歩に熱心なる女學雜誌の主筆巖本善治氏の管理する所にして既に一家の妻とありて家事向万端に忙はしき婦人の學校に入りて就學する能はざる者の智識を進めんとの親切に依りて發行する者なれば家事に追はれて學校に出入する能はざる婦人方は一本を購ふて他人に後れざる樣勉强ありたし

●毎日新聞評　此卷は女子生理、育兒心得、文學一斑、萬國史畧、西洋女禮、問答、談話等に分ちて孰れも簡易叮嚀に説き頗る婦人の獨學に適切したる良雜誌なり尚ほ毎月一卷つゝ發刊して家内經濟、女藝案内、理學一斑、其他有益の件を逐々記載し諸科講述の終りし後は更に高尚の學課に移る筈なりと云ふ

○右講義錄一冊二十錢郵送税を要せず半年前金一圓也

女學雜誌社

第四回點取文成績

第四回點取文題（日本婦人歎）に對し答文を寄せられたる者都合十四通中女流の手に成る者四通あり點撿の後左の三氏を甲乙丙の受點者とし各預定の賞酬を呈す

甲點　信濃諏訪郡長池村　牛山ナ子

乙點　伊勢多氣郡八木戸村　小竹啓三郎

丙點　越後西頸城郡糸魚川　吉岡禰藏

女學雜誌社

第五回點取文題

妓樓存廢論

右は我國妓樓の存廢の可否を論じ若し之を廢すべしとあらば併て之を廢止するの策を説き若し之を存すべしとして何ほ更に現行の制度を改良するの點ありとせば亦併て之を論ずるに在り而して答案は可存論と可廢論との二種に分ち双方に甲乙の受點者を置くべし即ち調査の上甲點を受る者は女學雜誌三十冊を呈し乙點を受る者は同二十冊を呈す

右答文〆切時日を來る六月三十日と定む右日限後に到着する者は乍遺憾點撿の中に收めず

東京新橋日吉町女學雜誌社

女學雜誌社

第二回女學演説會

傍聽無料　通券不用

來る五月二日午后一時開場二時開會木挽町厚生館に於て第二回女學演説を催し左の諸氏を聘して女子諸君の傍聽を請ふ

健全論　醫學博士　ケルセー孃　通辨　鈴木みつ

善良なる模範の價値　ツルー夫人　通辨　峯尾榮

日本の姉妹に勸む　海老名みや

婦人文明の働　佐々木とよ

禁飲酒吸烟

酒を要する交際は謝絶

菟道千春代

速記叢書

講談演説集

第五冊まで發行

●毎冊定價郵税共特別割引金拾四錢

●但第三冊に限り定價郵税共金七錢

講談演説集は速記術に熟達したる諸氏が速記術を利用して講演者の言語を其儘に寫し取りたるものゝ中に就き世に稗益ありと認むるものを採拾し其校閲を講演者に請ひ併せて掲載の許諾を得たる者を掲るを以て其誤謬なきは明白なり、近來杜撰なる筆記を爲し講演者の校閲は勿論其許諾をも得ずして其筆記を雜誌等に掲載するものある由なるを以て萬一かゝる雜誌と同一視せられむことを恐れ念の爲め廣告す●講談演説集第一冊より第五冊までに掲ぐる筆記は二十二篇にして左の諸君の高論卓説を掲載す

（イロハ順）

原坦山君　細川潤次郎君　外山正一君　渡邊鼎君　加藤弘之君　高田早苗君　中村正直君　平川盛三郎君　近藤眞琴君　井深梶之助君　大谷木備一郎君　フルベッキ君　寺尾壽君　薩埵正邦君　三好退藏君　關直彦君　杉亨二君

發賣

●東京日本橋通三丁目丸善書店　●東京本町三丁目瑞穗屋

●東京馬喰町二丁目石川治兵衞　●東京神田淡路町嚴々堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○○○成軒學人石原先生編輯○○○○○○○○○○○○○○○○

實地經驗 **技術全集**

西洋綴全一冊●定價金五十錢●今回一萬部限特別非常の大減價郵送費とも**金廿錢**にて發賣す●郵券代用い二割増の事

本書は衣、食、住、器、製造、妙術に關する日用必需の要件中簡便手輕にして實地に應用する者二百九種を何人にも分り易く詳に記載せる者あり○其目錄は餘り多きに付き此に載せず

染工必携 **萬色染法獨案內**

●舶來洋紙金襴表装●西洋綴製本美全一冊●定價金壹圓●今回一萬部限特別非常大減價郵送費共**金六拾錢**にて發賣す●郵便切手代用は二割増●滿員の上は貴需に應せず

本書は編者が實地に試み其色鮮美にして變褪の憂なく其法簡便にして實益ある染液製造法及び染揚法を悉皆記載せる者にて目錄を左に掲ぐ

（卷中目錄）緋色染法●緋色染同別法●花色染法●淺黄染法●藍鐵染法●藤色染法●藍鼠染法●銀鐵染法●藤鼠染法●銀鼠染法●水色染法●緋染粉製造法●緋色染法●紅梅色染法●桃色染法●トキ色染法●樺色染法●柿色染法●黄色染法●鶯茶染法●樺茶染法●金茶染法●密柑茶染法●小豆茶染法●蝦茶染法●白茶染法●青竹色染法●紫色染法●黒色染法●青色染法●革色染法●萌黄色染法●木綿紅染法●木綿漂白法●獸毛晒白法●木綿藍抜法●絹地藍抜法●絹地に白文字抜法●全印紋抜法●諸色止藥製法●カスカイ糊製法●繻子等の斑點抜法●フランチルの洗法●色染木綿洗法●木綿のカビ氣を除く法●布片の油汚を抜く法●染絹洗ひ法●手洗ひ水製法●其他色染法に關する要件

右二書へ編者か多年の間焦心苦慮の末學理と實地經驗とに依り其成効確著なる者のみ記載したる者にて方今世間に行はるゝ名のみにして實地に行ひ難き者の類にあらず特に其文章は俗語を用ゐ明細叮寧に記載あしあるに就き婦人兒童と雖とも一讀の上實地業に施こし得べし●製本落成致居候に就き着金次第送本す

出版專賣所 大坂東區臍安筋兩替町北入東側 **博文堂** 書舖

發兌					
四月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
五月。	七日	十四日	廿一日	廿八日	
六月。	四日	十一日	十八日	廿五日	
七月。	二日	九日	十六日	廿三日	三十日

定價			
一冊。	五錢	郵税。一錢	（但府內無郵税）
十冊。	四十八錢	郵税。十錢	（同前）
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行一回（廿七字詰）前金拾錢
同三回以上一割引
同六回以上二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町幾々堂○東京芝西久保櫻川町萬春堂○東京神田區雉子町開々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新投町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○東京本鄉四丁目文壽堂○橫濱作吉町角田屋貞○京都四條通小橋へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版舍○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原綠町石壽堂○上州高崎田町煥平堂○勢州松坂家里初枝

發行所

東京京橋區日吉町八番地
本局 **女學雜誌社**

持主兼編輯 巖本善治
印刷 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."
Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku-Zasshi Office, No. 8B Hiyoshichō, Shinbashi, Tōkyō, Japan.

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY